

第 239 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の議事録

部会長 村山元理

日時 平成 31 年 1 月 28 日 (月) 18:00-20:00

場所 企業家ミュージアム (丸和ビル 2 F 外神田 2-2-19)

議題 女性企業家の経営理念の研究 (続き)

参加者 佐藤、古山、山本、長塚、望月、緒賀、西村、新川、村山 9 名

欠席届 宇佐神、井上

今後の予定 毎月第 4 月曜日 18:00-20:00

2 月 25 日 (月) 企業家ミュージアム 予定

3 月 25 日 (月) 企業家ミュージアム 予定

村山より研究論文の解説と新聞記事の紹介：

- ・滝本佳子「女性起業家が成功に至った要因は何か？—女性起業家 7 事例からの法則—」『経営戦略研究』Vol. 5, 関西学院大学, 2011 年 07 月 31 日, pp. 123-138.
- ・「謎とき！日本—女性社長「同族承継」が 7 割—青森—」『朝日新聞』2019 年 1 月 20 日

佐藤：雇用機会均等法など女性の職場進出を支援する社会的制度について良く知らなかった。都会と田舎で違いがある。この論文は大変参考になった。

古山：家事の外部化によって産業が生まれた。育児や家事など。レストランもフランス革命以降、宮廷料理人がレストランを開いた。幼稚園も 19 世紀の産物。職業分類表の中で、女性が多い職種は何かを調べるべき。それは保育（緒賀）

- ・女性が起業しやすい領域ではない領域、建築業などでの創業事例を調べるべき。
- ・家事や育児は女性の仕事という社会的通念があり、性別役割分業の観念そのものを哲学的に問うことが必要。聖書の中で女性蔑視の思想がある。子育ては女性の仕事という価値観を日本人はもっているが。
- ・女性による、カント的な真の正しい意味における社会進出があるのか？
- ・Aldous Huxley の SF 未来小説である” The brave new world” (1932) は、資本主義社会の未来のあり方を皮肉っている。

望月：ジェンダー研究からは男性が戦争を起こしたという通念が否定されている、女性の軍隊もある。女性は 0 0 をすべきという観念、保守的な通念そのものが女性を縛っている。仕事、子育て、母性の規範とは。保育・福祉で、大規模化すると女性ではなく男性経営者になる。

西村：米国との貿易摩擦は以前からあり、トランプ政権との関係が大きく報道されていない。中国は内需中心へ経済がシフトしつつあり、これは日本企業が気付いていない。一带一路の政策で、多額の借款を通じた東南アジアとの関係がむしろ注目されている。小康経済と呼ばれ。成長率6.5%。中国の女性起業家は留学経験が必要なわけではない。

中国の格差よりも日本の格差の方が大きいのではないかと、よく日本で反乱がおきない。
長塚：事例研究の前に、社会情勢の把握が必要。SDGsの目標に女性の社会進出があり、その観点も入れるべきである。日経2019年1月24日の特集。『もう一つのノーベル賞』に日本人女性6人が入っている。

山本：梶谷『中国経済講義』（中公新書）が今の中国経済の理解によい。

質問項目として、起業した理由、動機について。

質問項目に、ジェンダー的な視点を入れる。誰から影響を受けたか？

緒賀：博士論文の提出、審査が終わって結果待ちの状況。

村山：2月以降、質問事項を決めて、担当者にインタビューをお願いする。